

確かな学力を支える「学びに向かう力」の育成

～読解力の向上を基盤とした学習指導を通して～

平成29年度 大津町小中学校共通実践事項

- (1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示
 (3)家庭学習の習慣化 (4)県学力調査に向けた課題克服プリントの計画的活用

8月8日(水)
徳淵

目指す授業像から考えるステップ

前期前半に先生方に宿題を出させていただきました、「目指す授業像から考えるステップ」について紹介します。

6・7月		➡	9・10月		➡	11・12月		➡	理想の授業像 (2・3月)	
低学年の先生方の考えるステップ										
教師が意図的に「なんで そういえるの?」「どう してそう考えたの?」と 切り返していく。	「ぼくは～。なぜかとい うと～。」のような話し 方で説明することがで きる時間を増やす。		授業の中で「ここまで は、OKだけど、ここか ら分からない」や「なん でそういえますか?」な ど、子どもがいう。		子どもたちが「なん で?」「どうして?」と いう問いをつぶやき、そ れが「めあて」「まとめ までいく授業。					
学習規律の徹底 ・友だちに体を向ける 等 自然なつぶやきを拾う	「読む、話す、聞く」際 の姿勢。大事なところに サイドライン		自分の考えと一緒に違 うかを考えて聞く (教師がどこが一緒か、 違うかを問う)		「話す」「聞く」のメリ ハリのある授業。友だち の話に自然な反応、つぶ やきをする。					
自分の考えを発表する (となりと話ながら)	どこが「同じ」「似てい る」「違う」を発表でき る		理由をつけて「同じ」「似 ている」「違う」が発表 できる。または、意見が 変わっていたら、その理 由も言える。		一人の子の発表に対し、 「同じ」「似ている」「ち がう」を判断し、自分の 意見を続けて発表する ことができる。					
中学年の先生方の考えるステップ										
とにかく反応する。「ど うして?」「分からない ?」が言える集団作り	自分なりの考えをもつ。 間違ってもOK、とにか くノートに書く。 ペア・グループ活動の基 盤を整える。		ペア・グループで伝え合 う。似ているところ、違 い(ズレ)を見つける。 (違って当たり前) ↓ 問いが生まれる		子どもたちがたくさん しゃべる授業(みんなが つぶやく)。ペア・グル ープ活動を楽しむ子ど も。					

6・7月	➡	9・10月	➡	11・12月	➡	理想の授業像 (2・3月)
中学年の先生方の考えるステップ						
めあてやまとめを確実に提示する。授業のふり返りを自由にノートに書かせる。	めあてやまとめを穴埋め形式で書かせるなど、やる気をもって考えさせる。ふり返りの視点を提示する。	めあてやまとめを決める際、学習内容を伝え、思考の手立てとする。ふり返りに疑問や友だちとの学びを書くよう促す。	めあてやまとめを子どもの言葉から拾う。問題解決型の授業を行い、児童が主体的に行う授業			
高学年の先生方の考えるステップ						
黙って話を聞く。自分で黙って問題を解こうとする意識をもつ。自分の考えを発表する(班の中→全体)。	班の中で自分の考えを出して話し合う。分からないことを「分からない」と言える。	自分の考えを全体の場で伝えたり人の意見を聞いたりする。班の中での学び合いができる。分からない人が分かるように教える。	自分の考えを一人一人がもつ。自分の考えを出し合う。(班の中で)分からないことを互いに教え合う。人の意見を聞いて、自分の考えと照らし合わせて発言する。			

一部を紹介させていただきました。(他の先生方のものは、改めて紹介させていただきます。)
先生方のステップの中にあった共通のものが、次の2つです。

子どもたちがのびのびと表現し合う 子どもからの「分からない」を引き出す

人権教育の視点を基盤とした、授業づくり・学級経営から育っていく部分です。「分からないことは分からないと言いなさい。」という、教師の一方的な指導では、子どもたちの自然な姿にはつながらないと思います。

なぜ「分からない」と表現することが大切なのかもふまえて指導をする。そして、「分からない」と、他者に問いかけた具体的な子どもの姿を評価し、学級で共有する。その繰り返して、少しずつ自然な「分からない」という子どもたちのつぶやきが出てくることにつながります。

のびのび表現し合う子ども。「分からない」を発信できる子ども。そんな子どもの姿が、「学びに向かう力」が高まった子どもの具体的な姿だと思います。

校内研の仮説や視点をもとに、先生方の学級の実態や目指す授業・学級経営に照らし合わせた、「学びに向かっている子どもの姿」を追究していきましょう！